

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 10 月 30 日作成)

小委員会名	建築プログラミング小委員会	主 査 名：柳父 行二 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム委員会	委員長名：田村 誠邦
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>施設の企画・計画における「建築プログラミング」(具体的な施設の設計・デザインを決める前提となる諸条件を抽出・整理していく活動)についてその方法論と効果について調査研究を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年度： 文書作成、著作の検討、プログラミングの活動事例や経験をまとめる。 ・2年度： 事例調査の継続。建築プログラミング活動プロセスおよび主体・情報・価値連鎖のモデル化。 ・3年度： 公開研究会の企画、準備。 ・4年度： 公開研究会の実施、資料集の刊行。建築プログラミング教科書の企画。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし	
	主査：柳父行二 (セカンドカード研究処) 幹事：柳澤要 (千葉大学)、柳沢和彦 (武庫川女子大学) 委員：安藤亨 (三重県)、井上誠 (宮城大学)、児玉達朗 (東京電力)、末廣健一 (山陽学園大学)、津島光 (近畿大学)、増村昭二 (フリー)、松下聡 (武庫川女子大学)、溝上裕二 (ジョーンズブラングラサール)、山田哲弥 (清水建設)	
設置 WG (WG 名：目的)	建築プログラミングの展開WG ・小委員会と同時開催し、公開研究会の企画、実施、資料作成などの作業を担当する。 ・調査結果の分析・モデル化などの個別の研究テーマについて、自主的に活動する。	
2018 年度予算	60,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keizai/prg/

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 事例調査： <ul style="list-style-type: none"> ・設計教育の中で課題探索を織り込んでいる事例を聴聞 ・教育実態アンケートの試案では課題探索と設計解の溝を超え難いことが判明 2. 公開研究会の企画：事例における公開研究会の企画検討中 3. 情報発信・情報共有：HPによる逐次情報公開 (研究会の報告、関連文献の紹介等) 三重県総合博物館 (H28年度公開研究会) で追加取材を行い、H30年度近畿支部に「業務計画者リード建築プログラミング事例にみる事業目的達成構造構築プロセス」を報告
委員会活動の問題点 ・課題	1. 建築プログラミングに関する大学教育実態調査：課題を与え解答を考えさせるのが通常の教育法で、課題探索に特化した教育を探すには調査法を考え直す必要がある。 2. 委員居所が広域なため、旅費・スケジュールの都合で、全員参加が難しい。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。